# 放流クロアワビの漁獲調査

小島　博・浜崎　晃・谷本尚則

徳島県栽培漁業センター産クロアワビは昭和55年から人工的に生産され，翌56年から出荷されている。本年度は放流から2年目に当たり，その放流効果を把握するため，56年度に10万貝を放流した由岐町阿部地先を選び，同地先の漁獲クロアワビ，放流貝の混獲率，成長などを調べた。

## 1　方　　法

昭和58年7月12日から9月13日の間に，由岐町阿部地先の漁獲クロアワビを7回調査した。調査項目は篭調査，操業場所別による放流貝再捕数，漁獲貝の年齢組成，放流貝の放流サイズと漁獲サイズとした。阿部漁協のクロアワビ出荷には46×31.5×17.5cmのプラスチック製篭を用いて，8kg詰めにして出荷している。この出荷カゴを毎回7～15個調べ，総クロアワビ数及び放流貝数を計数した。また，操業場所の明確な漁獲貝に含まれる放流貝数をチェックし，放流貝の一部について放流後の成長量を測定した。

## 2　結　　果

篭調査結果を表1に示す。総調査篭数は69個で，調査貝の総重量は546.7kgであった。調べた3,421個に38個の放流貝が含まれ，放流貝の混獲率は1.08％であった。また，これらの放流貝は年輪を用いた年齢査定法により，いずれも昭和56年に放流されたものである。阿部地先の本年度クロアワビ漁獲量は24.3トンで，個数に換算すると152,000個となる。このうち放流貝は約1,600個含まれていたと推定されるので，放流貝の推定回収率は1.6％程となる。

表1　放流クロアワビの混獲数

| 調査月日 | 調査篭数 | 総貝数 | 放流貝数 |
|---|---|---|---|
| 7. 12 | 7 | 360 | 9 |
| 7. 19 | 10 | 523 | 3 |
| 7. 27 | 10 | 479 | 7 |
| 8. 24 | 15 | 716 | 10 |
| 9. 1 | 7 | 351 | 2 |
| 9. 8 | 10※ | 465 | 1 |
| 9. 13 | 10 | 527 | 6 |
| 合　計 | 69 | 3,421 | 38 |

※　10篭のうち1篭は2.72kg

本年度の漁獲クロアワビの年齢組成を図1に示す。昭和56年放流貝と同年齢の貝（昭和55年発生群）は27％であった。同一年齢群（2歳貝）のうち4％が放流貝であったと推定される。

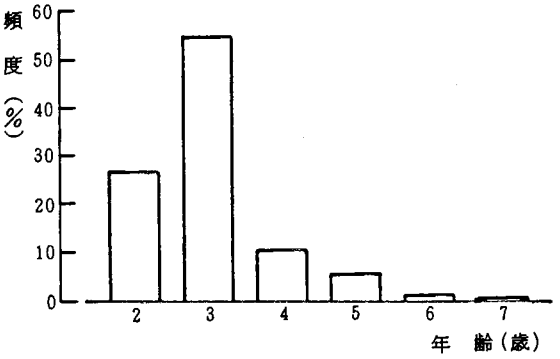


図1　漁獲クロアワビの年齢組成（阿部）

再捕場所別による調査で，放流貝が5個以上認められた場所を表2に示す。阿部地先では広範囲に放流されているが，放流貝の確認できたのは7漁場で，再捕数の多い場所は表2に示した4漁場であった。

表2　放流貝の主な再捕場所

| 再捕場所 | 放流貝数 |
|---|---|
| ウマガマ | 20個 |
| ヒトツバエ | 8 |
| ケンザキ | 6 |
| ソノ | 5 |

再捕貝の殻長は89～119mmであった。測定した60個の放流貝について，放流時，満2歳（輪紋による）及び再捕時のそれぞれ殻長頻度分布を図2に示す。再捕貝の放流時殻長は15～35mmの範囲にあり，平均値では21.2mmであった。満2歳時には，これらの貝は45～80mm，平均値では61.6mmに成長している。また，再捕時の平均殻長は95.2mmであった。

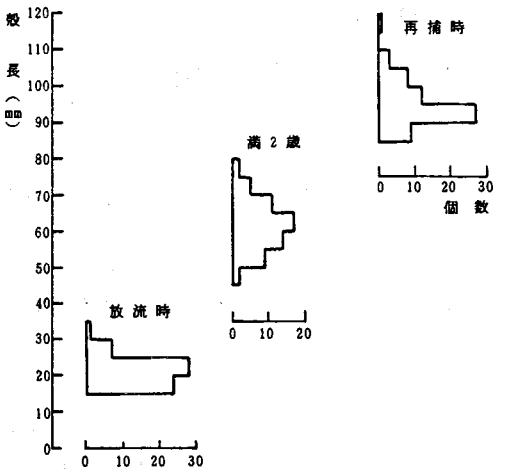


図2　漁獲された放流クロアワビの成長

## 3　考　　察

昭和55年に徳島県栽培漁業センターで生産されたクロアワビ種苗は2歳となり，成長の優れた貝は漁獲対象となった。阿部地先では56年度に10万貝を放流し，本年度の回収数は約1,600個と推定された。再捕場所を調査した結果，放流場所による成長差が大きく，殻長20mmサイズ（生後1年）で放流した場合，放流から1年半で漁獲サイズ（殻長90mm）に達する漁場が少ないことが判った。

漁獲クロアワビの年齢は2歳以上で，最多獲年齢は3歳（本年度は55％）である。従って，来年度にはほとんどの漁場で漁獲サイズに達し，57年放流貝の一部も含めて，かなり多くの放流貝が回収されると考えられる。来年度も本年度と同様な調査を続ける予定である。